

総合計画市民検討会議第3分科会(安全・都市基盤) 意見集計表

○将来像(テーマ)

- ・「北の田園都市」へ。旭川市の世界ブランド化を図る
- ・みんなが暮らし続けることができる街
- ・「自慢できる街」、「アイデンティティを持つ」、「旭川はいい街だ」
- ・自分達のものを変えたり、捨てたりして「おもてなし」するのではなく、自分たちの生活を豊かにして、悠々と暮らしを楽しんでいることに対し、「行ってみたい」、「住みたい」と思ってもらえる人達に「おすそわけ」する街を作っていく
- ・道北圏の防災センターを目指す
- ・ハード的、ソフト的にも「災害に強いまち」
- ・より安全安心な住みよい街を目指す

	①防災	②消防・救急	③交通安全・防犯	④環境・リサイクル	⑤エネルギー	⑥都市基盤整備	⑦交通	⑧住環境	⑨雪対策	その他	
課題・現状	税収減、財源減少 急速な人口減少時代、生産年齢人口減少、2040年には20～39歳の女性が半減、人手不足 一世帯当たりの人数の減少や高齢世帯が増加 生活のインフラも成り立たなくなる 旭川は20km四方ほどの範囲に収まり、都市部と近接した周辺部は自然が多い 北海道の中央に位置 人口減少を食い止める施策を率先し実施することが必要 旭川市民は「この街に生涯暮らしたい」と考える割合が非常に高い 自分もこの先も暮らしていきたい 自分は旭川に住み続けたい、住んでいる人が旭川を誇りに思う、地域に愛着をもてるようなまちづくり 人を呼び込むには所得と行政サービス、環境サービス(地域や環境がもたらす人にとっての恵み)の充実が必要 それが旭川の魅力										
	「地震の少ないまち」は裏を返せば「地震に不慣れなまち」	救急車の不適切な利用	一人暮らしの高齢者に対する悪質商法被害の増加	旭川は日本の都市の中でも飛び抜けて自然との距離が近いのが特徴	太陽光発電の低普及率	ある程度の都市機能と自然がある暮らし(田舎)を守っていくことが大事	駅を中心とした放射状の公共交通体系	駅を中心とした放射状の公共交通体系	中心市街地の空洞化	道路に堆積した雪による通行障害、危険	町内会の崩壊
	地震に対してのリスクがどの程度あるかわからない	消防団員のなり手不足 消防力の効率的な配置	携帯電話・インターネット等を利用する子供達に対する悪質商法被害の増加	駅裏にはサケが遡上し、200年の森が残っている30万人都市	雪の有効利用	中心市街地のみが繁栄するのではなく、地域の個性を生かしていく必要	マイカーが移動手段の主流	マイカーが移動手段の主流	休業商店等の増加	雪による公共交通機関の遅延	町内会加入率の低下
	豪雨時に万が一、地震が重なり、上流のダムが決壊すれば、旭川市全域に危険が及ぶ		一人暮らしの高齢者の孤独死が多い	中心部の緑被率が低い、緑の連続性がない		ほとんどの市街地は10km四方の範囲にあり、既にコンパクトシティ化されている	柔軟なバス路線対策ができていない	柔軟なバス路線対策ができていない	往来人数の減	除排雪費用の問題	住民主体の地域づくりの重要性
	防災面のハード整備は進んでいる		自転車の増加			居住部の拡大	バス交通がわかりにくい	バス交通がわかりにくい	大きな無料駐車場を有したイオンなどの商業施設が実績を上げている	非除雪区域の出現	
	旭川は災害が少ないが、万が一発生したときのことを考えておかなければならない		自転車の運転マナーの悪化			都市機能が充実した地方部	北海道のほぼ中央に位置する交通の要衝	北海道のほぼ中央に位置する交通の要衝	管理不全な空き家の増加	雪堆積場の不足	
	災害は少ないけれど、明日災害が起こる可能性もある		郊外の街灯が少なく暗い			近郊、オホーツク、稚内方面を視野にした市街地が構築	都市心と旭川空港で結ばれており、アクセス性の強み	都市心と旭川空港で結ばれており、アクセス性の強み			
	ハザードマップ運用の仕組みが薄い					維持管理時代を迎えるインフラ・ストック	道北の交通拠点となるまち	道北の交通拠点となるまち			
	防災施設運用の仕組みの強化が必要					老朽化した建築物の対策が急務	橋の多い街であるにも関わらず、交通渋滞が無いという現実も今までの取組の成果	橋の多い街であるにも関わらず、交通渋滞が無いという現実も今までの取組の成果			
	防災マップに記されている避難場所に実際に避難することは不可能					都市基盤を網羅的に整備することは難しい					
災害時の最寄りの避難所、避難施設までの経路の長さの問題					建設業は旭川の基幹産業						
地区によっては多大な被害が生じる可能性がある。					無駄な公共事業は許されない						
大規模な災害を想定した場合においては、実際は人手不足となる可能性					障害があっても暮らしやすいまちづくり						
有事の際には、地域の人々の協力・絆が大切					人ありてこそ都市といえる						
弱者が取り残されないための横のつながりが必要					建設業の担い手不足						
おいしさという魅力のほか、食の安全性ということもセールスポイント					グリラ豪雨による浸水被害						
火山災害というリスクはある											
対策・方向性	平時から道北圏の防災センター機能を持つ	救急要請の要否、応急処置等に係る相談窓口等の開設	消費者教育、環境改善	各家庭でのバイオマス燃料導入により、燃料費低減、林業雇用、森林整備が図れる	街灯を太陽光エネルギーにて対応	コンパクトシティ化	自動車交通と機能的に補完し合うような交通環境の整備(駐車場+シャトルバス)	効果的に中心市街地の再生・活性化を図る	行政による除雪と地域による除雪の体制整備	福祉業界等への就職先の斡旋を行い、労働の対価として扶助(自立支援)	
	道北、各市町村への派遣部隊、被災者受入体制の確保		高齢者や子供に対する悪質商法対策	既にある美しい地域資源を見つめ直し、市民もその価値を自覚し、アピールする	太陽光などの自然エネルギー活用	都市のダウンサイジング	周辺地域を結ぶ交通網の整備	中心市街地の居住部分の拡充	地域に根付いた除雪体制を構築	旭川を大企業の研修地にする	
	安心して暮らせる都市機能の充実を強みに、移住・企業誘致を積極的に行う		交通マナーの向上	省エネ・ノーレジ袋を長期的な展望で捉え、子供に教える	各家庭でのバイオマス燃料導入により、燃料費低減、林業雇用、森林整備が図れる	周辺部の開村(段階的整理の検討)	柔軟なバス路線対策	柔軟なバス路線対策	中心部への住み替え促進	除排雪は、各地域の民間業者に長期に渡り事業を任せ(行政は側面支援)	大企業を誘致することで旭川に企業の発信点に
	リスクが少ないというところは、街の特性・自慢として宣伝出来る		自転車走行帯の普及が必要(冬は道路の雪置場としての利用)	動物園の地球環境・自然環境の保全といったテーマに配慮した環境整備	雪等未利用エネルギーの有効利用	拡散から集約へ	ドイツにならった公共交通機関	ドイツにならった公共交通機関	高齢者に対する居住性の向上を図り、まちなか居住促進を図る	個人企業が自分の地域の除排雪を自社の資金で担当する等の対策を練る	旭山動物園の再生の過程を展示する
	要所に標識として「日本一安全な街＝旭川」と掲げる		高齢者の安心	動物園と裏山である旭山とのつながりの活用	旭川石油会社を第3セクターで立ち上げる(灯油を安価で提供)	周辺地の切り捨てではなく、商業施設や文化施設、行政施設等の再編・再配置を検討	駐車場料金補助、無料化	駐車場料金補助、無料化	高齢者向け居住施設や賃貸住宅の整備、移転誘導措置の導入	除雪に要する財政負担の軽減が期待	ネット配信等を全国へ発信
	安全な街を目指す		安心して暮らせるように			市街地を住みやすくし、まちなか居住を誘導する方法が成功のカギ	冬期にバスを増やす	冬期にバスを増やす	高松丸亀町の中心市街地対策に学ぶ	冬の迅速な除雪	他の都市との交流を祭り等イベントをして深めていく
	市民をはじめとした全市民的防災体制の構築		非行の少ない明るい街に			周辺地域同士の機能連携を図る	空港へのJR乗り入れによって、空港の利用しやすさを向上	空港へのJR乗り入れによって、空港の利用しやすさを向上	イベントによる賑わいの創出と外部発信	見通しの悪いところの除雪重点化	他都市と相互発展
	市民意識を向上させ、防災対策や避難訓練などを充実し、災害に強い体制を整備		歩行者の安全確保のための道路対策			周辺地域こそ住みやすいまちづくりを目指す	旭川・札幌間の移動時間の短縮	旭川・札幌間の移動時間の短縮	旭川を知り尽くし謎などの啓蒙活動	雪を寒さを味方にする	市民相互のつながりを深め、わが街に誇りを持つ
	民間企業間の防災協定等機の連携					都心部への人口流出を防ぐ「人口ダム」としての役割(人口流出に歯止め)	観光客、外国人にもわかりやすいバスマップ、表示	観光客、外国人にもわかりやすいバスマップ、表示	小路の再生	雪の有効利用、利活用	市立大学の構想
	近場に避難場所を確保する必要がある					12年後に旭川の人口が30万人以上を保っていることを目標	動物園から離れた場所に大型駐車場を設置し、シャトルバスで結ぶ	動物園から離れた場所に大型駐車場を設置し、シャトルバスで結ぶ	車で来やすい街づくりという方向		旭川ウェルビーイングコンソーシアムを活用、ホールディング化
	一時避難場所の確保とその後の円滑な避難場所への移動手段の構築					人口流出を止め、流入を増やす手立てを積極的に検討すべき	商業施設の充実	商業施設の充実			地元で学生だけでなく全国から学生を集めることができる
	防災のための近隣住民の協力が重要					リタイア世代だけでなく、現役世代も呼び込める策についてあらゆる検討	庶民が気軽に駐車場を利用でき、ゆっくりと買い物を楽しめるような環境を作る	庶民が気軽に駐車場を利用でき、ゆっくりと買い物を楽しめるような環境を作る			外貨を稼ぐことを考えなければならない
	自主避難できない人をどの人が避難援助をするかを決めておく					リスクやメリットをはっきりさせ、安全性、魅力につなげる必要	デパート・商店街を連絡する空中回廊の設置	デパート・商店街を連絡する空中回廊の設置			些細なことでも市民の声を拾う努力
	各世帯の防災備蓄の普及					観光、定住促進を図ることも重要	買物公園の魅力を出す	買物公園の魅力を出す			お互いの町内会の交流
	避難時間を確保するための避難塔の建設、避難に係る機能の充実が必要					社会増減(転入転出等)への対策が重要	「ロマンチック街道恋人通り」緑道～買物公園の素晴らしさを宣伝	「ロマンチック街道恋人通り」緑道～買物公園の素晴らしさを宣伝			旭川石油会社を第3セクターで立ち上げる(灯油を安価で提供)
	避難情報伝達方法の充実化、停電時や深夜帯でも機能する防災無線を整備					人の集まる都市に	旭川の魅力をもっと市民や市が自覚してアピールしていく	旭川の魅力をもっと市民や市が自覚してアピールしていく			雇用における若年女性優遇措置
	十勝岳噴火総合訓練の実施					自然環境と都市のバランスを維持し、旭川の魅力を将来に引き継ぐ	買物公園に機型エトペーター等、新たな公共交通機関の設置	買物公園に機型エトペーター等、新たな公共交通機関の設置			女性の就職の幅を広げる
	建築物の劣化度に基づく耐震対策、整備計画が重要					広くて穏やかな地域性を自分達の強みとし、魅力として伝える方法の検討	市庁舎は、広場等を兼ね備えたランドマークとして人が集まれるような場	市庁舎は、広場等を兼ね備えたランドマークとして人が集まれるような場			結婚応援政策
倒壊する可能性がある建築物を記載したハザードマップの作成					公共インフラは選択・集中した上、維持・更新	サンタラゼンパークや嵐山からの夜票を観光名所に	サンタラゼンパークや嵐山からの夜票を観光名所に			子育てしやすいような支援が必要	
					インフラ、ストック保全に対する市民への情報提供、共通認識	身近な自然資源を生かしたサイクリングロードの更なる活用	身近な自然資源を生かしたサイクリングロードの更なる活用			既に市が打ち出している観光医療としての方向性を更に発展	
					上下水道、橋梁の経年化に関する補修整備計画	「新屯田システム」を構築	「新屯田システム」を構築			安心な医療環境を充実させることも重要	
					老朽施設を取り壊す「減築」の試行	空き家対策(除却、有効利用、危険防止)	空き家対策(除却、有効利用、危険防止)			農業を6次産業化することで、農業を発展	
					都市基盤を守る建設業の「公」的な側面を積極的に重視、支援					動物園付近に宿泊施設、体験学習施設の整備	
					札幌のバックヤード機能を持ち、お互い不可欠な関係を構築					まちの魅力アップ、生活基盤の充実、子供の教育基盤、雇用も重要	
					グリラ豪雨対策						